

定期報告（ウルグアイ政治・経済：2024年10月）

【ポイント】

内政

- 国際的な年金制度の格付けでウルグアイが対象国48か国中第13位にランクされ、高い評価を得た。
- ウルグアイ大統領選挙第一回投票の結果、得票率上位二名のオルシ拡大戦線（F A）候補（野党）及びデルガド国民党候補（与党）による決選投票が翌月実施される運びとなった。
- 両院議会選挙において、拡大戦線（F A）党が上院過半数議席を獲得した一方、下院は与野党いずれも過半数割れとなった。

経済

- 2024年1月から9月までの財輸出は9,732百万米ドルを記録。
- 過去12か月間のインフレ率は5.57%（8月時点）から5.32%（9月時点）に減少。

【本文】

1 内政

（1）ウルグアイ年金制度の国際的評価

16日付け当地エル・pais紙は、マーサーCFA協会が世界48か国の年金制度を分析し、2024年度「グローバル年金指数ランキング」を発表した旨報じた。ウルグアイは第13位、ラテンアメリカではチリ（第9位）に次ぐ第2位であった。首位はオランダ、アイスランド、デンマークと続き、日本は第36位であった。同ランキングは、各国の年金制度を「十分性（給付水準が十分か）」、「持続性」、「健全性（制度が適切に運用されているか）」に基づいて評価。ウルグアイの年金制度は、「十分性」が高く評価（48か国中3位）されたが、「持続性」で順位を下げた（下から16番目）。なお、10月27日にウルグアイ大統領選挙及び議会選挙と同時に、年金受給年齢の引下げ（65歳から60歳）等の年金制度に係る国民投票が実施されたが、否決となった。

（2）大統領選挙第一回投票結果

27日、ウルグアイ大統領選挙第一回投票が実施され、オルシ拡大戦線（F A）候補（野党）が最も高い得票率43.8%を得たものの、期待した45%に達せず、一方、デルガド国民党候補（与党）は26.9%と思いのほか健闘し、与党連合全体（国民党、コロラド党、開かれた市民集会、独立党）でも47.1%と期待を上回る結果となった。11月24日にオルシ候補とデルガド候補による決戦投票が行われる予定であり、接戦が予想されている。

（2）上院下院議会選挙結果

27日、大統領選挙と同時に議会選挙が実施され、上院（30議席）において拡大戦線（FA）が16議席で過半数多数を獲得した。なお、副大統領が上院議長を兼ねるため、上院議席数は最終的に31議席となる。一方、下院（99議席）では、拡大戦線（FA）が48議席、与党連合（国民党、コロラド党、開かれた議会党、独立党）が49議席獲得し、いずれも過半数割れしているため次期政権では与野党間協力が不可欠となる。現地紙は、拡大戦線（FA）は魅力的な議員候補を擁立し、世代交代に成功した一方、バスケス元大統領やムヒカ元大統領のようなカリスマ性ある重鎮が去る中、今後も中道左派路線を維持できるのか、それともより左派へとベクトルが動くのか見守る必要がある旨報じた。

2 経済

（1）ウルグアイ貿易投資促進庁による輸出額の発表

2日付けエル・オブセルバドール紙は、ウルグアイ貿易投資促進庁は、9月の関税フリーゾーンからの輸出を含む財輸出は1,182百万米ドルとなり（前年同月比14%増）、2024年1月から9月までの財輸出が9,732百万米ドルを記録し、昨年同時期と比べ15%増加した旨報じた。9月の輸出増加を牽引したのは引き続き大豆とセルロースで、同月の主要輸出先は中国が第一位、続いてEU、ブラジルの順であった。

（2）国家統計院によるインフレ率の発表等

4日付け現地紙等は、国家統計院（INE）は9月の消費者物価指数が前月比0.37%増となり、過去12か月間のインフレ率は5.57%（8月時点）から5.32%になったと発表した旨報じた。これにより、インフレ率は過去16か月間連続で目標インフレ率（3%～6%）を達成したが、ウルグアイ中央銀行は、目標インフレ率の中央値を目指し、インフレ率抑制のため政策金利を8.5%に据え置くことを決定した旨報じた。

3 要人往来

（1）往訪

- ・ 2日：サンギネッティ観光大臣のドミニカ共和国訪問（観光関連国連会議）
- ・ 5日：ファシオ工業エネルギー鉱業大臣のスイス訪問（欧州原子核研究機構、WIPOTC特許協力条約批准書寄託）
- ・ 13日～16日：カスティンデバ国防大臣のアルゼンチン訪問（米州国防大臣会合）
- ・ 21～26日：アルベレチェ経済大臣の訪米（世界銀行及びIMF年次総会）
- ・ 23～24日：マツス農牧水産大臣のアルゼンチン訪問（農畜産ビジネスフォーラム）
- ・ 28日～11月1日：ブビエル環境大臣のコロンビア訪問（生物多様性条約締約国会議）